

# ただいま大学野球部監督 兼代表取締役

下枝博之

(高36回)



●しもえだ・ひろゆき  
飯田市鼎出身。将棋班で県大会優勝し全国大会出場。将棋4段。横浜国立大学経済学部卒、1988年住友銀行入行。2005年三井住友銀行を退職。StoCrete Japan株代表取締役。19年横浜国大準硬式野球部監督就任。

「今、何してますか?」と問われれば、最近はこう答えるようしている。

「今は、大学野球部監督兼代表取締役です」。

飯田高校の自由な空間は居心地が良かつた。以後、高校時代そのまま、常に楽しいと思えることに熱中してきた。自由に生きてきた結果とりあえず今は収まつた。振り返ると、人生のターニングポイントでも割と安易に人生の進路を決めてきた。軽率短慮であつたとも言えるが、根がポジティブな性格なので迅速果敢であつたと思うようしている。

## 不惑にして転身

18歳の春、古里を離れるのは必然で、理系クラスだったが、横浜という響きが何となく恰好いいという理由だけで横浜国大経済学部に進んだ。大学では、体育会準硬

式野球部に打ち込みながらもテニスサークルに所属し、ヒッチハイクで横浜―大阪を往復するなどモラトリアムを存分に味わった。

22歳大学4年の夏、時はバブル経済で完全な売り手市場、希望すればどこでも就職出来るような感覚だった。人生の大きな岐路である就職活動では、特に銀行業務に興味を持つことは無かつたが、猫も杓子も金融という流れの中で、三菱銀行と住友銀行の内定をもらい、最後は肌感覚で住友銀行に決めた。  
新人社員時は新人類



保土ヶ谷球場にて、投手交代を告げる監督(筆者)・背番号30番

## 恩師の後を受け大任を引き受ける

と言われ、バブル経済下で今では言えないコンプライアンス御構い無しの営業を行い、その後都市銀行が潰れる金融危機を経て、都市銀行13行が4行になる金融再編も経験した。

(謙遜なく言えば) 銀行ではそれなりに出世はしていたが、40歳で18年勤務した三井住友銀行を辞めた。ずっと燃り続けていた「このまま銀行員として終わつていいのか……」との思いと当時客先の社長から「君は銀行員ではもつたない」と言われたことを真に受け、飛び出した。失敗しても話のネタとしては面白いとも飯田に帰つてもいいかなとも、軽く考えていた。

## 次は、兼○○○?

今は、社会インフラの維持に貢献するとしてコンクリート構造物の補修・補強事業を行っている。転身する際にこの業界に興味があつた訳では無かつたが、糺余曲折があつてここに落ち着いた。社員を一人ひとり集め、全てをイチから自分で築いていくことが楽しかった。

銀行時代は組織の論理・判断に縛られ窮屈だったことを辞めてから実感した。最近では、鼎の実家近隣の松川に架かる新久米路橋と松川橋の補修・補強工事を行い、少しほは親孝行ができたような気もする。

人生80年ならあと25年で何が出来るだろう? 高校時代の3年はなぜゆつたりと流れていたのか? 今一番欲しいものは時間だ。この25年でも色々とチャレンジ出来たと考えれば何でも出来る気もする。人生百年ならまだ45年もある。次は何をしようか……。  
しばしば「いつまで社長やるの?」と聞かれるが、社員や取引先のことを考えると、銀行を辞めてしまつたように勝手に辞めるわけにはいかない。数年後には、大学野球部監督兼代表取締役兼○○○となつてゐるかもしれない。